原　著

専門看護師として認定を受けていない専門看護師教育課程修了者の認定申請に向けたサポートニーズ

中　村　伸　枝（千葉大学大学院看護学研究科）
臼　井　いづみ（千葉大学大学院医学研究院）
松　田　直　正（千葉大学大学院看護学研究科）
荒　木　暁　子（千葉県千葉リハビリテーションセンター）
市　原　真　穂（千葉県千葉リハビリテーションセンター）
奥　　朋　子（千葉大学医学部附属病院）
添　田　百合子（大阪医科大学附属病院）
細　矢　美　紀（国立がん研究センター中央病院）
松　岡　真　里（名古屋大学大学院）

専門看護師として認定を受けていない専門看護師教育課程修了者の認定申請に向けたサポートニーズを明らかにすることを目的に，専門看護師として認定を受けていない専門看護師教育課程修了者に自記式質問紙調査を行い，197名から回答を得た。調査内容は，看護師経験年数，課程修了後の年数，現在の立場，認定申請に向けた準備状況，医療施設での雇用や活動の実態，認定申請に向けて受けた支援，申請準備を行わない理由，申請のために必要な支援や条件などであった。

専門看護師認定審査の受験資格となる実務研修期間を満たしていない対象者は93名（47.2%）であり，認定申請の申請を目指して準備をしていない修了者は100名（50.8%）を占めた。申請準備をしている修了者の95.6%は医療施設に在職しており，申請準備をしている者は，活動範囲が病院全体である者（カイ二乗値9.14, $p<0.03$），勤務時間での活動が可能である者（カイ二乗値10.27, $p<0.01$）が有意に多かった。申請に向けた支援は，「医療施設からの支援」が最も多かった。申請準備をしていない100名の申請準備をしない理由は，「個人的理由により実務経験が積めない」，「臨床経験を積んでから申請準備をしたい」が多く，修了後の年数による特徴がみられた。

申請準備中の修了者に対する医療施設からの申請に必要な活動を行いやすくする立場や役割，活動時間等の支援が求められる一方で，申請準備をしていない修了生への臨床能力を高める支援や専門看護師を目指す動機づけの維持，ワークライフバランスなど多様なサポートニーズが明らかになった。

KEY WORDS：Certified Nurse Specialist, CNS Candidate, Support Needs, preparing for CNS certification

Ⅰ．はじめに

平成６年に専門看護師制度が発足してから15年が経過し，平成22年４月現在の専門看護師教育機関は，60大学154課程に増加し，認定者数は平成23年１月現在612名に増加している[1)]。しかし，専門看護師の数を地域別にみると，東京都，神奈川県，兵庫県，大阪府の４都府県で329名（53.8%）を占めており，地域による偏りが大きい。また，専門看護分野別では，がん看護が250名（40.8%），精神看護93名（15.2%）が多い一方で10名以下の分野もあり，専門看護分野による偏りも大きい。専門看護師の増加に伴い，専門看護師の業務の実態[2)]や役割の認知[3)]，役割を遂行する上での困難[4)]，看護管理者からの期待[5)]，サポートニーズ[6)]などの研究が蓄積されてきている。しかし，専門看護師として認定を受けていない専門看護師教育課程修了者に対する研究はほとんど行われていない。専門看護師教育課程数に比して認定者数は少ない現状にあるが，専門看護師教育課程修了者数が少ないのか，あるいは，修了者後に認定に至るものが少ないのか，その実態や原因は明らかにされていない。日本看護協会は平成21年度より，専門看護師認定審査の受験資格について，教育課程修了後の実務研修期間を１年以上から６カ月以上に短縮するなどの変更を行うとともに[1)]，平成22年には各専門看護師教育機関におけ

受理：平成23年４月５日　Accepted : 7. 5. 2011.

る専門看護師教育課程修了者数についての実態調査を開始している。専門看護師教育課程が増加していることや，高度実践に向けたカリキュラムの改善が検討される中，認定を受けていない専門看護師教育課程修了者のサポートニーズを明らかにすることは専門看護師教育の改善や，専門看護師制度を効果的に運用するために意義が大きいと考えた。本研究におけるサポートニーズには，教育課程修了後，認定申請に向けて準備に取り組んでいる者が申請に向けて必要と感じているサポートだけでなく，認定申請に向けて取り組んでいない／取り組めない者が，認定申請のために必要としていることを含めた。

本研究は，文部科学省 組織的な大学院教育改革推進プログラム「専門看護師育成・強化プログラム」により行われた専門看護師および専門看護師教育課程修了者の教育ニーズとサポートニーズに関する研究の一部である。

Ⅱ．研究目的

専門看護師として認定を受けていない専門看護師教育課程修了者の認定申請に向けたサポートニーズを明らかにする。

Ⅲ．研究方法

１．研究対象

専門看護師として認定を受けていない専門看護師教育課程修了者（以下，修了者とする）

２．データ収集方法

自作の調査用紙を用いた自記式質問紙調査。内容は，年齢，看護師経験年数，専門看護師教育課程修了後の年数，専門領域，現在の立場，専門看護師の認定申請に向けた準備状況，医療施設での雇用や活動の実態，認定申請に向けて受けた支援，申請準備をしていない修了者が申請準備をしない理由や申請のために必要な支援や条件など。調査内容は，専門看護師教育に携わる研究者４名と専門看護師（がん看護・小児看護・慢性疾患看護）５名で検討を重ね作成した。

調査時の平成20年９月に専門看護師教育課程（以下，教育課程とする）の認定を受けていた，全国34大学101教育課程の責任教員に研究への協力を依頼した。30大学68教育課程から調査協力の承諾と対象候補者数の回答が得られた。対象候補者が０人であった８課程を除き，人数分の調査用紙一式を個別に封入して教育課程の教員に郵送し，修了者への郵送を依頼した。また，教育課程を通して調査用紙が届いていない修了者のうち，共同研究者を通し調査への同意が得られた者には直接郵送した。調査は無記名で行い，返信用封筒による研究者への返送をもって承諾が得られたこととした。

３．調査期間

平成20年９月から12月

４．分析方法

年齢や，看護師経験年数，教育課程修了後の年数，専門分野，現在の立場，認定に向けた申請準備状況，医療施設での雇用や活動の実態は，記述統計を用いた。また，申請に向けて準備に取り組んでいる場合と，申請に向けて取り組んでいない/取り組めない場合には，受けているサポートやサポートニーズは異なると考え，以下のように分析を行った。すなわち，申請準備状況は，「今年申請した」と「来年度以降の申請に向けて準備中」を【申請準備をしている群】，「今のところ申請の予定はない」と「今後も申請するつもりはない」を【申請準備をしていない群】として２群に分け，医療施設での雇用や活動の実態などの記述データについてカイ二乗検定を用いて分析した。さらに，申請準備をしない理由について，受験要件の実務研修を満たすために必要な期間や，施設の中で専門看護師に準ずる活動が可能になる期間等を考慮し，修了後の年数を３年以下，４～６年，７年以上の３群に分け，カイ二乗検定を用いて分析した。

自由記載のデータは，内容を損なわないように要約した後，認定申請に向けて受けた支援については，医療施設，教育機関，専門看護師等の支援の主体ごとに，類似するものを集め内容分析を行った。また，申請準備をしない理由，申請のために必要な支援や条件については，類似性・相違性に基づき内容分析を行った。

統計解析にはSPSS Ver.16を用い，有意水準0.05とした。内容分析の結果は，共同研究者９名と検討を重ね，妥当性の向上に努めた。

５．倫理的配慮

千葉大学看護学部倫理審査委員会の承認を得て実施した。認定を受けていない修了者は，個人情報保護の観点から直接連絡をとることが困難であるため，以下の２つの方法：①教育課程の責任教員宛に研究の目的・方法等を記載した依頼文を送付し，研究に協力可能な場合には同意書と修了者の人数を回答してもらい，人数分の調査用紙一式を個別に封入して教員に郵送し修了者への郵送を依頼する。②共同研究者を通して同意が得られた修了者には直接郵送する，を用いた。調査は無記名で行い，返信用封筒による研究者への返送をもって承諾が得られたこととした。返送された調査用紙は，鍵のかかる書庫に保管し，データ入力後シュレッダーにて破棄した。入力データは調査終了後消去した。

Ⅳ．結　果

１．対象者の背景

教育課程から回答のあった264名と個人協力者25名，合計289名に調査用紙を郵送し，197名から回答を得た（回収率68.2％）。対象者の背景は，30歳代が121名（61.4％）と最も多く，教育課程修了後の年数は３年以下が142名（72.1％）を占めた。現在の立場は，医療施設の看護職が131名（66.5％），教育機関の教員が44名（22.3％）等であった（表１）。また，看護師経験年数と専門領域での経験年数についてクロス集計を行うと，看護師経験年数11年以上かつ専門領域での経験年数９年以上ある修了者が56名（28.4％）と最も多かった（表２）。クロス集計に修了後１年未満の人数を加えると，調査当時の専門看護師認定審査の受験資格「実務研修５年（３年以上は専門看護分野の実務研修，１年以上は修了後の実務研修）以上」を満たしていない対象者は93名（47.2％）であった。

表１　対象の背景

n＝197

項　　目		人数（％）
年齢	20代	14（ 7.1）
	30代	121（61.4）
	40代	57（28.9）
	50代	4（ 2.0）
	無回答	1（ 0.5）
教育課程修了後の年数	１年未満	64（32.5）
	１～３年	78（39.6）
	４～６年	39（19.8）
	７～10年	13（ 6.6）
	11年以上	2（ 1.0）
	無回答	1（ 0.5）
専門分野	がん看護	46（23.4）
	精神看護	31（15.7）
	小児看護	27（13.7）
	急性・重症患者看護	21（10.7）
	母性看護	19（ 9.6）
	慢性疾患看護	16（ 8.1）
	地域看護	14（ 7.1）
	老人看護	11（ 5.6）
	家族看護	9（ 4.6）
	感染症看護	3（ 1.5）
現在の立場	医療施設の看護職*	131（66.5）
	教育機関の教員	44（22.3）
注）*：２つの立場をもつ１名がダブルカウント	学生，研修生等*	4（ 2.0）
	無職	7（ 3.6）
	その他	12（ 6.1）

表２　看護師経験年数と専門分野の経験年数別の人数

n＝191

看護師経験年数＼専門分野の経験年数	３年未満	３～５年	６～８年	９年以上
５年未満	7（2）	14（3）		
５～７年	5（2）	15（5）	17（8）	
８～10年	6（1）	9（5）	19（7）	13（ 4）
11年以上	7（2）	8（1）	15（5）	56（19）

注）（）：このうち修了後１年未満の人数

２．専門看護師認定申請の準備と現在の立場および教育課程修了後の期間

認定申請の準備状況について回答があった187名の内訳は，「今年申請した」28名（15.0％），「来年以降の申請を目指し準備」59名（31.5％），「今のところ申請の予定はない」72名（38.5％），「今後も申請するつもりはない」28名（15.0％）であり，申請を目指して準備をしていない修了者は，100名と半数以上を占めていた。

認定申請の準備状況と現在の立場を，図１に示す。「今年申請した」と「来年以降の申請を目指し準備」の２つを合わせた87名中，82名（94.3％）は医療施設の看護職であった。一方，教育機関の教員の43名中40名（93.0％）は，申請準備をしていなかった。教育課程修了後の年数別にみると，「今年申請した」28名中20名（87.0％）は修了後１～３年が占めていたが，４～６年４名（14.3％），７～10年３名（10.7％），11年以上１名（3.6％）も少数ながらみられた（図２）。また，修了後３年以下の修了者133名のうち，「今のところ申請の予定はない」は49名，「今後も申請するつもりはない」は13名であり，修了後３年以下の修了者のうち半数近くは申請準備を行っていなかった。

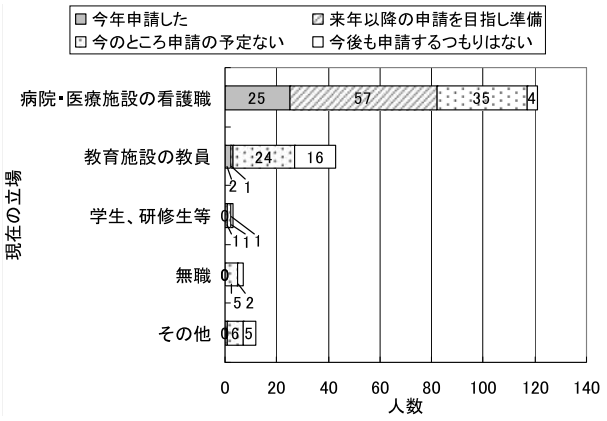

図１　専門看護師認定の申請準備状況と現在の立場

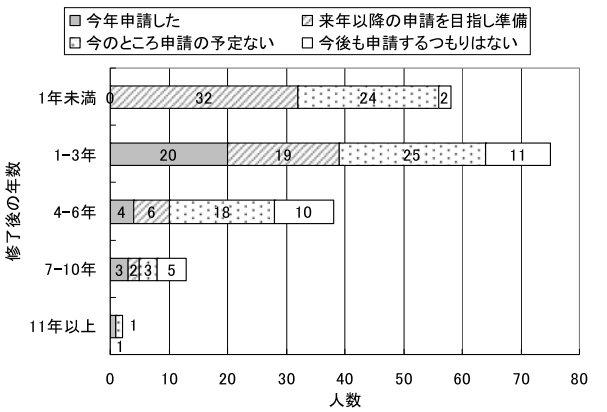

図２　専門看護師認定の申請準備状況と修了後の年数

３．医療施設における雇用・活動の実態と申請に向けた支援

１）雇用と活動の実態

医療施設における雇用・活動の実態について，在職中131名，在職していた23名，合わせて154名（78.2％）から回答が得られた。このうち専門看護師が在職していたのは70名（45.5％），修了生が在職していたのは54名（35.1％），認定看護師の在職は100名（64.9％）であった。雇用形態はほとんどが常勤（147名，95.5％）であり，夜勤有は112名（72.7％）であった。医療施設での配置は，病棟・外来が121名（78.6％）と約3/4を占め，独立部署・配置21名（13.6％），退院調整部門や訪問看護部門等４名（2.6%），その他として訪問看護ステーションや診療所等が４名（2.6%），無回答４名（2.6％）であった。医療施設での職位は，師長11名（7.1％），副師長・主任34名（22.1％），スタッフ看護師87名（56.5％）その他22名（14.3％）であり，半数以上がスタッフ看護師であった。活動範囲は，病棟（外来を含む）主体が112名（72.8％），病院全体37名（24.0％），無回答５名（3.2％）であった。以上より，約3/4の修了者が病棟主体で夜勤を行いながらスタッフとして活動していた。

医療施設における専門看護師認定申請に向けた活動について，133名から回答（複数回答）があり，勤務時間外に活動する者が71名（53.4％），主たる業務の合間に活動する42名（31.6％），要請があれば勤務時間内に活動する17名（12.8％），活動時間が決められている16名（12.0％）であり，多くが主たる業務以外の時間で活動していた。

表３　修了者が認定申請に向けて受けている支援

n＝50名，67件

支　援　源	支　援　内　容（件数）	支　援　の　具　体　例
医療施設からの支援（41件）	立場，役割の支援（17件）	看護部長が，様々な役割づくりをしてくれる
		横断的な活動に向けた副師長試験への推薦をしてくれた
		院内シンポジウムのシンポジスト等院内教育，行事への推薦をしてくれる
		自分の時間内であれば院内のラウンドをし，師長を通せばコンサルテーションをしてよい
		所属病棟以外に，自分の関心を持つ場で勤務ができるよう配慮してもらっている
		上司や病棟スタッフに，申請に向けて関わりたい事例について相談し調整してもらっている
		病棟スタッフとしての人員は0.5人として数え，病棟業務の分担を少なくしてもらっている
		看護部からはＩＣＴのラウンドに参加できるよう配慮してもらった
		研修会や院内のCNS連絡会などの参加に協力的
	活動時間の確保（10件）	活動時間の確保（２日／月だったが現在は４日／月に拡大してもらった）
		院外活動，学会出席時の休暇の調整。（年休・公休）
		看護部長からCNSの活動時間を確保してもらえるよう支援を受けている
	配置の支援（７件）	病院全体で活動しやすいように相談支援センター兼務としてもらった
		希望する（自己の看護専門分野に関連する）部署への配置
		配置を考慮された（日勤コースで，部署に属さないポジション）
	活動への助言や指導（７件）	院内のがん看護CNSにCNSの役割について指導を受けた
教育機関からの支援（16件）	活動のスーパーバイズ（７件）	大学院の教授との定期的な面談，活動のスーパーバイズ
	申請書類の指導（３件）	修了した大学の先生に，申請書類をみてもらった
	事例検討会（２件）	修了した大学の教授・先輩との事例検討
	CNSに関する情報提供（２件）	出身大学院の教授から，CNSに関する情報提供やCNS・関係者を紹介してもらった
	活動機会の提供（１件）	指導教員から，院外の活動（コンサルテーションや専門的介入など）の場を提供されている
	精神的サポート（１件）	修了した大学の教授・先輩からの精神的サポート
専門看護師・修了者からの支援（10件）	活動のアドバイス・事例検討会（６件）	同じ大学院修了生の定例会や学習会において，修了者やCNSからのアドバイスが得られる
		領域のCNS研究会へ参加することで，先輩CNSよりアドバイスを受けている
		自主的なCNS及びCNS候補生での事例検討
	精神的サポート（２件）	CNS，認定の会があり，精神的に支援をうけている
		CNS研究会への参加により“仲間がいるという”と感じモチベーションを低下させないでいられる
	申請支援（２件）	CNSに活動時間を得るための相談や書類レポート作成時のポイントなどを支援してもらった

2）雇用と活動の実態と申請準備の有無

申請準備について，【申請準備をしている群】86名と【申請準備をしていない群】59名の２群に分け，職位，常勤/非常勤，夜勤の有無，活動範囲，専門看護師に準ずる活動時間についてカイ二乗検定にて分析した。その結果，活動範囲と活動時間に有意差がみられ，【申請準備をしている群】は，活動範囲が病院全体である者の方が病棟主体である者より（カイ二乗値9.14, $p<0.03$），また，要請があれば勤務時間内に活動する・活動時間が決められている者の方が主たる業務の間に活動する・勤務時間外に活動する者より（カイ二乗値10.27, $p<0.01$）有意に多かった。

3）申請に向けた支援

申請に向けた支援を受けていると回答したのは，【申請準備をしている群】では45名（52.3%），【申請準備をしていない群】では３名（5.1%），および，準備状況無回答２名の，合計50名であった。支援を受けていると回答した50名から67件の支援内容が得られた（表３）。支援内容は，「医療施設からの支援」41件が最も多く，申請に必要な活動を行いやすくする立場・役割の支援17件，活動時間の確保10件，配置の支援７件，活動への助言や指導７件が含まれた。「教育機関からの支援」は16件であり，活動のスーパーバイズが７件と最も多く，申請書類の指導３件等が含まれた。「専門看護師・修了者からの支援」は10件であり，活動のアドバイス・事例検討会が６件，精神的サポート２件，申請支援２件が含まれた。このうち，【申請準備をしていない群】が受けていた支援は，「医療施設からの支援」２件と「専門看護師・修了者からの支援」１件のみであった。

4．申請準備をしていない修了者の申請準備をしない理由

【申請準備をしていない群】100名に対し，申請準備をしない理由について複数回答を求めた。その結果，「個人的理由により実務経験が積めない」39名（39.0%），「臨床経験を積んでから申請準備をしたい」32名（32.0%），「業務が忙しく申請準備ができない」25名（25.0%），「その他」47名（47.0%）であった。「その他」を除く３項目の申請準備をしない理由の有無を修了後の年数で３年以下，４～６年，７年以上の３群に分けカイ二乗検定を行った結果，「臨床経験を積んでから申請したい」のみ有意差がみられ，修了後３年以下で多かった（カイ二乗値10.42, $p<0.01$）。「その他」の理由は47件の自由記載があり，内容分析の結果「自信がない」８件，「専門看護師になる意義に疑問がある・必要ない」12件など，修了者自身の個人的な理由が多かった（表４）。また，「教育機関に所属している」７件など制度上の理由や，「CNSに準ずる活動ができない」６件など医療施設の環境に関わる内容，「CNS候補生を受け入れる就職先がない」３件などが含まれていた。

表４　申請準備をしていない修了者の申請準備をしない「その他」の理由

n＝47名，47件

理由（件数）	具体的な記述例
CNSになる意義に疑問がある・必要ない（12件）	専門看護師になること自体への意義・目的を見失っている
	専門看護師が本当に必要とされているのか疑問を感じることがある
	専門看護師になる魅力が分からなくなった
	資格をとるメリットが感じられない
	今のところ，特に必要ない
	認定看護師であるため，急いで審査を受ける必要性を感じていない
CNSになる自信がない（８件）	専門看護師としてやっていく自信がない
	自分自身の知識や，力が不足している
	申請をとるためのビジョンをアピールできない個人の問題
CNSになる動機がない（５件）	大学院入学時に専門看護師になることを目的としていなかった
	動機がうすい
臨床での勤務を望まない（４件）	臨床で働く予定がない
	病気療養に専念するため
CNS候補生を受け入れる就職先がない（３件）	今現在CNS，PHNとしての就業先がない
	働く場が不足，病院での年令制限
CNSに準ずる活動ができない（６件）	経営状態が悪くポストに着く事が困難
	現組織に就職して期間が短いため，スタッフとしての業務を優先している
	他にやるべき業務があり，優先している
	対象となる症例（がん患者のケア）がない
	教育，協働などコンサルテーションをする　機会が少ない
教育機関に所属（７件）	教育機関に所属しているので認定を受けられるほどの臨床経験が得られない
	教育機関に勤務しているため，審査基準を満たさない
行政分野に所属（１件）	現在，行政分野におり実務経験が積めない
教育機関からの指導（１件）	教育機関から様子をみるようにと言われた

5．申請準備をしていない修了者が申請準備のために必要とする条件

【申請準備をしていない群】100名に対し，申請準備のために必要と考える条件を自由記載で尋ねた結果，80名から100件の内容が得られた（表５）。最も多かったのは，「医療施設における認知・位置づけの改善」24件，続いて「医療施設での活動環境の改善」16件など医療施設からの支援であった。また，「継続教育・申請支援」は，10件あり，医療施設に加え専門看護師や教育機関からの支援を含む内容であった。また，「自身の能力担保」15件，「自身の意思」７件，「家庭とのワークライフバランス」６件など個人的な問題への対処が含まれた。更に，「教員が専門看護師になれるシステム」15件，「審査資格・方法の改善」５件などが挙げられた。

表５　申請準備をしていない修了者が申請準備のために必要と考える条件

n＝80名，100件

申請準備に必要な条件（件数）	具体的な記述例
医療施設での認知・位置づけの改善（24件）	専門看護師を目指している者として能力をアピールし，その活動の時間や自分が担える役割，を提供できる場があること。上司の理解組織のvisionにCNSや上級実践看護師が含まれること
	病院の管理者の専門看護師に対する理解。病院として申請に対する協力が得られればよい
	職場の中に，専門看護師についての認知度がある程度広まること
	施設としての必要性が明確になり，位置づけや活動，報酬等が整備されれば，資格を取得したい
医療施設での活動環境（配置・活動時間）の改善（16件）	専門看護師に準ずるコンサルテーションや講義を行える環境。一病棟のスタッフの立場では全体がみえない
	今まで全く経験のない分野への配属は実践活動が難しいため，配属はスペシャリティのある所がよい
	フリーの時間がほしい。（月１日だけでも）職務時間内で準備がしたい。しかし，それには管理職の理解と協力が必要である。個人の努力だけでは気持ちが萎えてしまう
継続教育・申請支援（10件）	申請に向けての継続的な研修・職場でも求められること・職場のサポート
	専門看護師と一緒に活動したり，活動を学べる場（これでいいと認めてもらえる場も，人も身近にいないため。）
	申請にむけてのアドバイザー的存在がいること
	修了後もスーパーバイズが必要だと思うので，職場と教育機関の協力が必要
	修了後も，継続して指導をうけられるような指導者の存在が必要
	大学院を入学，修了した時点での個人の専門看護師としての力量は，個人差が大きいと思う。力のある人は，今のままでも十分準備をしていけると思うが，力の少ない人へのフォローが欲しい
自身の能力担保（15件）	自分のCNSと資質（技術，知識，一番は人格）が整えられたら
	専門看護師認定審査申請の準備に必要な知識と経験を得たと自分で思えたら
	自分の覚悟。やっていけそうだという感覚。周囲のスタッフが認めてくれること
	専門分野の実践能力の向上，知識の増加，コンサルテーション能力の向上が得られたと感じられたら
自身の意思（７件）	専門看護師として，臨床でずっと働いていくという決意が固まれば
	専門看護師としてどう活動していくかのビジョンが自分の中で出来，それに対してある程度，自信がついたら
	専門看護師になるために，個人のモチベーションの維持・向上が必要だと思う
家庭とのワークライフバランス（６件）	家庭が落ち着いてから・CNSはプライベートの時間，労力，お金を費して仕事に充てていると思うので，そのための家庭内の準備をしてからでないと，両方が破たんしそう
	育児がおちつき，専門分野への就職ができること。また，その就職先の病院で理解があること
	家族の理解と協力があること
教員が専門看護師になれるシステム（15件）	教育の立場でも臨床実習での指導実績や臨床スタッフへの指導，教育相談の実績，などが認められるとよい
	教育機関にいても認定を受ける条件を満たすぐらいの臨床での実践ができれば，可能かもしれない。大学の業務だけでも膨大で，その上に，申請のための実践を充分にやることは超人的な技だと思う
	教育現場と臨床両方に在籍できるようなシステムが勤務形態としてあると良い
	現在の修了後の臨床勤務についての規制緩和。大学教員という立場でも臨床へのコンサルテーション等，実践も行うことができ，カウントされれば道が広がる
保健師がCNSとして受け入れられること（２件）	保健師をCNSとして受け入れる行政が身近にあること
審査資格・方法の改善（５件）	教職などとの経験年数の互換性など，具体的な部分について公開してほしい
	審査基準そのものに問題があるのではないか。実際の活動を見ていても，力のある人は認定されず，スタッフの活動とかわらない看護を行っている人が認定されていると感じる
	申請料金を安くしてほしい

Ⅴ．考　察

１．専門看護師として認定を受けていない修了者の多様性

H23.5.11に日本看護協会より，1998年度～2009年度における専門看護師教育課程修了者数実態把握結果が専門看護師教育課程宛に公表された（回答率100%）。公表データによると，本調査を行った2008年度３月時点での修了者数は713名であった。修了者のうち何名が認定されていたかというデータは公表されていない。本調査時点での修了者と個人認定の者を含めた認定者数238名を考慮すると，調査時点で認定を受けていなかった修了者の数は500～600名と考えられ，本研究の対象者は母集団の約1/3を占めていたと推察される。また，公表された専門領域毎の修了者数と本調査の専門領域毎の対象者数は同様であり，教育課程で所在を把握していた修了者という偏りはあるものの，概要の把握は可能と考える。

修了者の看護師経験年数と専門領域の経験年数は多様であり，看護師経験年数と専門領域の経験年数に隔たりがある者がいる一方で，両者が短い，あるいは長い者もおり，専門看護師の基盤となる実務経験に大きな差があることが推察された。看護師経験11年以上で専門領域の臨床経験年数も９年以上の修了者が最も多かったこと，このうち教育課程修了後１年未満が19名含まれていたこ

とは，教育課程数がまだ少ない状況を反映していると思われる。専門看護師の基盤となる実務経験が多様であることは，教育課程修了時点での専門領域の看護実践能力やコミュニケーション能力，マネージメント能力など修了者の抱える問題が多様になる要因の一つと考えられる。

２．医療施設における申請に向けた支援の重要性

認定に向けた申請準備をしている修了者の95.6％が医療施設に在職していること，活動範囲が病院全体である者や，要請があれば勤務時間内に活動する・活動時間が決められている者は申請準備をしている者が多かったこと，修了者の受けている支援や申請のために必要と考える支援のいずれにおいても医療施設からの支援が最も多かったことから，医療施設における申請に向けた支援の重要性が再確認された。専門看護師においても医療施設で看護管理者や周囲の理解を得たり，活動の場や時間を獲得するのは困難な状況があり[4]，医療施設への貢献が未知数である修了者が活動のための支援を得ることは，現在の看護師不足や医療施設の経済の側面からも難しいと推察される。しかし，看護管理者の多くは共に働く専門看護師の活動から専門看護師の役割を学習し評価すると共に，看護の質向上につながる専門看護師の活動に期待しており，専門看護師を育成する視点に立った看護管理者による育成ラダー作成も試みられている[7]。修了者と看護管理者のコミュニケーションの促進や，教育機関と看護管理者の協働がより重要になると考えられる。

３．修了者が認定申請をしない多様な理由・サポートニーズと支援

申請準備をしない理由のうち「個人的理由により臨床経験が積めない」と「業務が忙しく申請準備ができない」には，修了後の年数による違いはみられなかったが，修了後３年以内では「臨床経験を積んでから申請したい」が有意に多かった。修了者は，理論や論理的な思考など教育課程での学びを，複雑な事例に展開していく際に困難を感じており[8]，教育課程での学びを実践に生かし専門看護師としての自信をもつまでにある程度の期間が必要であると考えられた。本研究において教育機関からの支援は少なく，教育機関による差が大きいと推察された。修了者自身の看護実践能力の向上に向けた努力は必須だが，事例検討へのスーパーバイズなど教育機関による修了後の継続教育も必要と考える。加えて、医療施設で修了者を育てていく継続的な支援や，医療施設と教育機関の連携，専門看護師による支援も必要と考える。

修了者が申請準備をしない理由には，教育機関の教員であることも挙げられていた。看護学教育の急速な高度化による教員の不足を背景に，看護師経験が長く修士の学位をもつ修了者は教育機関からの需要が高い。修了者が教育機関に在職することは，修了者の教育に関するスキルを向上できること，教育機関においても質の高い実習指導が行える等の利点がある。しかし，多忙な看護系の教育機関に在職しながら専門看護師に準ずる実務研修を行うことは困難であり，長期間の在職では，認定申請に向けた意志を維持することも難しいと考えられる。教育機関に所属しながら非常勤で週８時間以上の実務研修ができる雇用形態，あるいは，非常勤として施設と契約を結ばなくても，教育機関に所属して行う研修を実務研修期間に換算できる審査基準の検討も必要と考える。

また，修了後どの年数でも「個人的理由により臨床経験が積めない」が多く挙げられていた。修了者の7割近くが20代・30代の結婚や出産などライフイベントの多い年代であること，申請準備のために必要と考える条件に「家庭とのワークライフバランス」が複数挙げられていたことから，キャリアデザインのなかにワークライフバランスをどのように位置付けていくか，修了者や専門看護師との体験の共有やアドバイス等も必要であろう。

さらに，申請準備をしないその他の理由には，「専門看護師になる意義に疑問がある・必要ない」が含まれており，専門看護師を目指して実践を積む中で申請に至らず諦めていく内容が含まれていた。一方で，修了後の年数が短い修了者でも「動機が薄い」「専門看護師となることを目指していなかった」など教育課程入学時からの動機づけが低い回答も少数ながら含まれていた。専門看護師教育は少数かつ個別性の高い大学院生を対象としたエフォートの高い教育であり，教育課程に受け入れる際の基準の設定や，入学後に専門看護師に求められる能力や態度を，専門看護師を目指す学生との相互作用の中でどの様に発展させていけるかが課題と考える。

本研究の結果，申請準備中の修了者に対する医療施設からの申請に必要な活動を行いやすくする立場や役割，活動時間等の支援が求められる一方で，申請準備をしていない修了者への臨床能力を高める支援や専門看護師を目指す動機づけの維持，ワークライフバランス，審査資格・方法の改善など多様なサポートニーズと，支援の方向性が明らかになった。教育課程の充実と共に，教育課程修了後の継続教育について「専門看護師強化コース」の取り組み[9]を発展させることなどを通して，教育課程修了者の申請準備や専門看護師の活動の充実・発展に向けた取り組みを進めていきたい。

本研究の一部は，第29回日本看護科学学会学術集会で発表した。

引用文献

1）日本看護協会ホームページ，専門看護師　教育機関　認定審査，http://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/senmon/index.html（参照 2011－1－18）
2）黒田裕子，山田紋子，棚橋泰之，津田泰伸：認定看護師と専門看護師が資格を活かして日々実施している業務の実態自由記載された内容の質的分析．北里看護学誌，12(1)，11－17，2010.
3）黒田裕子，山田紋子，津田泰伸：わが国における専門看護師と認定看護師の役割期待認知，役割遂行認知，役割遂行能力評価の実態．北里看護学誌，12(1)，1－10，2010.
4）山田紋子，黒田裕子，棚橋泰之，津田泰伸：専門看護師と認定看護師が自己報告した役割を遂行する上での困難さに関する質的分析．北里看護学誌，12(1)，18－19，2010.
5）鶴田恵子，渡邊美紀子，田中由紀子，前田久美子：看護部長が期待している専門看護師の業務内容と責任の範囲．日本赤十字看護大学紀要，20，32－42，2006.
6）高見由美子：「専門看護師サポートネットワークシステム」の開発における専門看護師が求めるサポート内容の明確化．兵庫県立大学地域ケア開発研究所研究活動報告書集，４巻，1－4，2010.
7）荒木暁子，中村伸枝，臼井いづみ，渡辺尚子：専門看護師クリニカルラダー・育成ラダー試案の開発－管理者とのコミュニケーションツールとして－．第14回日本看護管理学会年次大会，132，2010.
8）中村伸枝，臼井いづみ，松田直正，荒木暁子，市原真穂，奥朋子，添田百合子，細谷美紀，松岡真里：専門看護師として認定を受けていない専門看護師教育課程修了者の教育ニーズ．千葉大学看護学部紀要，33，31-37，2010.
9）千葉大学大学院看護学研究科：専門看護師育成・強化プログラム成果報告書．千葉大学大学院看護学研究科，2010.

SUPPORT NEEDS OF CANDIDATES FOR CERTIFICATION AS A CERTIFIED NURSE SPECIALIST

Nobue Nakamura[*], Izumi Usui[*2], Naomasa Matsuda[*], Akiko Araki[*3], Maho Ichihara[*3], Tomoko Oku[*4], Yuriko Soeda[*5], Miki Hosoya[*6], Mari Matsuoka[*7]
[*] : Chiba University Graduate School of Nursing
[*2]: Chiba University Graduate School of Medicine
[*3]: Chiba Rehabilitation Center
[*4]: Chiba University Hospital
[*5]: Osaka Medical College Hospital
[*6]: National Cancer Center
[*7]: Graduate School of Medicine Nagoya University

KEY WORDS :
Certified Nurse Specialist, CNS Candidate, Support Needs, preparing for CNS certification

The purpose of this study was to clarify the support needs of candidates for certification as a certified nurse specialist（CNS）. A questionnaire survey was conducted on 197 candidates for CNS. The survey contained items about clinical experience, number of years since graduation, current position, preparations undertaken for CNS certification, working environment at medical facilities, support received for applying for CNS certification, the reason for not preparing for CNS certification, and support required for applying for CNS certification.

The following results were obtained. A total of 93（47.2%）candidates lacked the clinical experience required for CNS certification. Furthermore, 100（50.8%）candidates stated that they are not preparing for CNS certification. In total, 95.6% candidates who aim to apply in the near future currently work at medical institutions. Significantly more candidates whose responsibilities are hospital-wide and who can perform preparation activities during work hours were preparing for CNS certification than candidates whose responsibilities are mainly within their own ward and who can only perform preparation activities outside of work hours. Most support for CNS certification was from nurse administrators. Many candidates stated "I cannot acquire the required practical experience for personal reasons", and "I would like to prepare to apply after I have more clinical experience" as reasons that they are not preparing for CNS certification. And these reasons have characteristics with number of years since graduation.

Support from nurse administrators, including guaranteeing activities leading to application, is very important for candidates who aim to apply in the near future. In addition, support that improves candidate's clinical competence, maintains their motivation and facilitates balance between work and other aspects of life are important for candidates who are not currently preparing for CNS certification.